

2023年度個人研究費（特別支給）一覽

長 島 剛 子 NAGASHIMA Takeko 教授

研究課題 趣旨・目的	A. ツェムリンスキーと A. ヴェーベルンの作品研究 「ロマン派から20世紀へ」のシリーズ第5回となるこの演奏会では、前半に A. ヴェーベルンの様々な時代の作品、後半には A. ツェムリンスキーの12の歌曲作品27を演奏した。シェーンベルクを中心とする新ウィーン楽派の一員として、無調から12音技法へと進んだヴェーベルンと、そのシェーンベルクの義兄であり彼と深い関わりを持っていたが、途中から違う道を進んだツェムリンスキーの作風の違いを探ると共にその歌曲の魅力に迫る。
公表方法	演奏会「長島剛子・梅本実 リートデュオ・リサイタル ロマン派から20世紀へ Part V - ツェムリンスキーとヴェーベルンの作品」
日程・会場	2023年10月30日（月）東京文化会館小ホール
曲 目	A. ヴェーベルン：《歌とピアノのための3つの歌曲》より〈早春〉 《初期の8つの歌曲》より〈仰ぎ見て〉〈花の挨拶〉〈上機嫌〉 《シュテファン・ゲオルゲの『第7の環』による5つの歌曲 作品3》 《ピアノのための変奏曲 作品27》 《4つの歌曲 作品12》 A. ツェムリンスキー：《12の歌曲 作品27》
備 考	共演：梅本 実（ピアノ 本学教授）

近 藤 伸 子 KONDO Nobuko 教授

研究課題 趣旨・目的	ベートーヴェンのピアノソナタの研究 ～初期と中期の比較を中心に～（4） 中期の傑作第21番《ワルトシュタイン》を中心に、ソナタ形式の楽章を持たない第12番《葬送》、牧歌的な第15番《田園》、および後期のチェロソナタ第5番を取りあげる。過去の研究成果を踏まえ、ベートーヴェンの思想や時代背景、楽器の発展にも目を向け、室内楽曲、交響曲など他ジャンルの作品とも比較しつつ、初期・中期・後期の書法的な違いを形式、和声、動機操作、強弱法、ピアノ技法等の面から多角的に研究し、演奏につなげる。
公表方法	演奏会「近藤伸子ピアノリサイタル Kondo Nobuko Plays Beethoven VI」
日程・会場	2023年11月16日（木）東京オペラシティリサイタルホール
曲 目	L.v. ベートーヴェン： ピアノソナタ第12番 Op.26 ピアノソナタ第15番 Op.28 ピアノソナタ第21番 Op.53 チェロソナタ第5番 Op.102-2
備 考	共演：河野文昭（チェロ）

濱 尾 夕 美 HAMA O Yumi 教授

研究課題 趣旨・目的	S. ラフマニノフのピアノ独奏作品における歌謡性と心象風景の探求 偉大なコンポーザー・ピアニストであるラフマニノフに焦点を当て演奏会を開催する。ピアノ独奏作品の最初と最後の作品をプログラムの両端に据え、前半は「悲歌」の情緒を辿るように前奏曲を数曲と交友の深かったメトネルの作品で悲劇的情緒を結実させる。後半はクライスラーにまつわる編曲作品と最後の独奏作品《コレッリの主題による変奏曲》を組み、作曲技法の変遷を追いながら愛の悲しみと喜びのロマンティズムを探求する。
公表方法 日程・会場 曲 目	演奏会「浜尾夕美ピアノリサイタル～ラフマニノフ生誕150周年に捧ぐ～」 2023年9月17日(日) 銀座 王子ホール S. ラフマニノフ： 幻想小曲集 Op.3 No.1 悲歌 10の前奏曲 Op.23 No.2, No.3, No.5 13の前奏曲 Op.32 No.5, No.10 N. メトネル： 《忘れられた調べ 第2集》Op.39 No.3 春 No.4 朝の歌 No.5 悲劇的ソナタ F. クライスラー = S. ラフマニノフ： 愛の悲しみ 愛の喜び S. ラフマニノフ： コレッリの主題による変奏曲 Op.42

久 元 祐 子 HISAMOTO Yuko 教授

研究課題 趣旨・目的	ベートーヴェンの初期ピアノ・ソナタにおけるハイドン、モーツァルトの影響と克服 ベートーヴェンピアノ・ソナタ全曲演奏会の第1回として、ベートーヴェン初期のソナタ4曲を取り上げた。ウィーンでハイドンに師事し、ピアニストとしてのキャリアをスタートさせたベートーヴェンが、ソナタの形式という枠組みの中で、いかに独創性を発揮したか、またモーツァルトの短調作品からの大きな影響を受けながらもそれを凌駕し、よりダイナミックな音楽を切り開こうとしたかを探求した。
公表方法 日程・会場 曲 目	演奏会「久元祐子ベートーヴェンピアノ・ソナタ全曲演奏会」(vol. 1) 2023年11月7日(火) サントリーホール ブルーローズ L.v. ベートーヴェン： ピアノ・ソナタ 第1番 ヘ短調 op.2-1 ピアノ・ソナタ 第5番 ハ短調 op.10-1 ピアノ・ソナタ 第4番 変ホ長調 op.7 ピアノ・ソナタ 第8番 ハ短調 op.13 《悲愴》

三 木 香 代 MIKI Kayo 教授

研究課題 趣旨・目的	ショパン作品の演奏法研究——ペダリングに着目して—— ショパンの作品を演奏する際に欠かせない演奏技法の一つとしてペダリングがあり、その適否が演奏の出来を左右するといっても過言ではない。本研究の趣旨・目的は、ショパンの様々なジャンルの作品について、音の響きを決すともいえるペダリングに着目して演奏法を考察し、指導に役立てるための視点を持ちつつ自己のペダル奏法を再確認することにある。
公表方法 日程・会場 曲 目	演奏会「三木香代ピアノリサイタル」 2024年3月3日（日） Hakuju Hall F. ショパン：前奏曲 作品45、舟歌 作品60、幻想曲 作品49、 スケルツォ第3番 作品39、ノクターン 作品48-2、 3つのマズルカ 作品50、即興曲第3番 作品51、 子守歌 作品57、バラード第4番 作品52

沢 田 千 秋 SAWADA Chiaki 准教授

研究課題 趣旨・目的	「ピアノ・トランスクリプション 作品／精査と演奏I」《ブラームス 弦楽六重奏曲 op.18 ロベルト・ケラーによるピアノソロ編曲》 ブラームス《弦楽六重奏曲 op.18》は、作曲家自身によって4手連弾版と、第2楽章のピアノソロ版《主題と変奏》が遺されている。彼の周辺の編曲家であったロベルト・ケラーは、同作品をピアノソロ用に編曲し、《ソナタ》として出版した。本研究では、この作品を収録し、編曲内容の精査をするとともに、第2楽章においては作曲者自身による編曲との比較研究を行うことを目的とする。
公表方法 日程・会場 曲 目	①オンライン配信 ②論文投稿（国立音楽大学『研究紀要』第59集） 2024年3月収録 府中の森芸術劇場ウィーンホール ブラームス：《弦楽六重奏曲第1番 op.18》 ロベルト・ケラーによるピアノソロ用編曲《ソナタ》
出版日 備 考	2024年3月末日（予定） 収録：川西広文（Westriver Recording） 曲目解説：沼口 隆

新 納 洋 介 NIINO Yosuke 准教授

研究課題	ロベルト・シューマンの内面に存在する対照的な二面性の探求～フロレスタンとオイゼビウス～
趣旨・目的	ピアノ科の学生が取り組むべき大切な作曲家のうちの一人、シューマン。彼の作曲活動の根幹には情熱と苦痛の両面が入り乱れており、作品には常にその二面性の音楽が存在すると言われている。シューマンが持つ正反対の特徴をいかに弾き分けるかを第一義に研究し、最終的には、学生達への指導の際、シューマンの表現方法、特徴について、よりの確な言葉と実演で示すことができるようになることを目的とする。
公表方法 日程・会場 曲 目	演奏会「新納洋介ピアノ・リサイタル」 2023年10月23日（月） 東京文化会館小ホール ショパン：ノクターン第4番 ヘ長調 作品15-1 4つのマズルカ（遺作）作品68 J.S. バッハ：パルティータ第1番 変ロ長調 BWV825 ブラームス：主題と変奏 ニ短調 作品18b クララ・シューマン：3つのロマンス 作品11 第2曲 ト短調 シューマン：ピアノ・ソナタ第1番 嬰ヘ短調 作品11

井 川 明 彦 IKAWA Akihiko 教授

共同研究者	栃本 浩規 TOCHIMOTO Hiroki 非常勤講師
研究課題	熟達したトランペット奏者達のソロおよびデュエットによる新しい演奏表現、レパートリーの可能性
趣旨・目的	研究したい作品をそれぞれの演奏スタイルに配慮し、ソロとデュエットを一曲ずつ選曲した。そして選んだ曲の持つ特性をふまえた音楽表現を試みる。さらに、この演奏を上質な音響で収録することにより、多くの後進の指導・育成に活用することを可能にするとともに、同じように熟練の域に達した奏者仲間へ送る励ましのエールとするものである。
公表方法 収録日・会場	CD 発売他 2023年5月3日（水）～5日（金） 岐阜県高山市 飛騨・世界生活センター 飛騨芸術堂
曲 目 出版日 レ ー ベ ル 備 考	ジョーセフ・ホロヴィッツ：コンチェルティーノ・クラシコ など 2023年10月20日（金） N-crafts Sound 共演：下田 望（ピアノ伴奏）

丸 山 和 範 MARUYAMA Kazunori 教授

共同研究者	塩谷 哲 SHIONOYA Satoru 准教授
研究課題	ミュージカル（教材）『ジャズミュージカル～ピアニスト アーサー・マッカーサーの青春（仮）』の作品制作とリーディングトライアウト（試演）
趣旨・目的	本年戦後78年日本現代史重要人物であるマッカーサーの息子であるアーサー・マッカーサーがジャズ・ピアニストであり存命であることなど、ほぼ知られていない事実を元にオリジナル・ミュージカルを制作する。本学にはジャズ専修、ミュージカルコース、実用音楽コースがあり、教材としても有効で、作曲者丸山のクラシックをベースにジャズ・ポピュラー音楽の教育経験、各ジャンルの作曲のキャリアの集大成としての音楽制作を意図する。
公表方法 日程・会場	ミュージカル『Arther』トライアウト公演 2024年2月29日（木）国立音楽大学 6-110

川 島 素 晴 KAWASHIMA Motoharu 准教授

研究課題	箏楽における新しい表現の可能性
趣旨・目的	箏楽奏者の中村仁美をゲストに迎えた「川島素晴 works」シリーズ中最大編成による内容。前半は古代楽器、正倉院復元楽器、現代と、箏楽同属楽器の歴史を辿る。後半は特殊奏法、動き、映像を伴うものと、現代における箏楽の新しい可能性を探求し、最後にこの日の全出演者による上演を行う。現代箏楽演奏の可能性を探求する唯一の存在である中村仁美との協働により、全方位から新しい可能性を切り拓く。
公表方法 日程・会場	演奏会「川島素晴 works vol.6 by 中村仁美」 2023年9月5日（火）豊洲シビックセンターホール
曲 目	全曲川島素晴作品 アウロスイッチ（2014） ASPL ～正倉院復元楽器による「遊び」（2011） ASPL II（2021） ポリプロソポス III（1995） 三巳一体（2013） ひひきちり ちちきりひりり ききちりひ（2023 / 初演） ギュムノパイドディア / 裸の若者たちによる祭典（2016）
備 考	出演：川島 素晴（声、法螺貝、指揮）、中村 仁美（箏楽、大箏楽、アウロス）、西 陽子（アングルハーブ、箏篋、箏）、中村 華子（笙、竽）、新保 有生（篠笛、排簫）、他多数

早稲田 みな子 WASEDA Minako 教授

研究課題	アメリカ日系人強制収容所の日本伝統芸能——「ビジュアル・オーラルヒストリー」のデジタル・アーカイヴ化の試み
趣旨・目的	本研究は、申請者が協力者として関わったドキュメンタリー作品『隠れた遺産——アメリカ日系人強制収容所の伝統芸能』（シャーリー・ムラモト監督、2014年）の制作過程で行われたインタビューの映像記録を、デジタル・データとしてアーカイヴ化することを目的としている。このオーラルヒストリー・デジタル・アーカイヴをインターネットで公開することで、その史料価値が広く共有・利用されることを目指すものである。
公表方法	オーラルヒストリー・デジタル・アーカイヴの公開、および関連学会の研究会や会報を通じた公表
備考	デジタル・アーカイヴの一般公開は2024年10月を予定している。

三浦 雅展 MIURA Masanobu 准教授

研究課題	アイトラッカーを用いた演奏時の視線解析に関する研究
趣旨・目的	演奏家による演奏時の視線には譜読みや他の奏者への合図など、重要な内容が反映される。視線運動を分析するにはアイマークレコーダーまたはアイトラッキングと呼ばれる眼球動作の記録と分析を行なう必要があるものの、高価で入手困難であったが、本研究ではより安価な視線解析法を提案し、コンピュータ処理手法を開発する。パソコンのディスプレイ上に示された動画を視聴する際の視線の解析手段を実現し、その効果を検証する。
公表方法	2024年度内の日本音響学会音楽音響研究会または日本音楽知覚認知学会全国大会にて発表予定。

三宅 博子 MIYAKE Hiroko 准教授

研究課題	知的障害当事者を含む参加者の協働による音楽活動の実践的研究—アクションリサーチの手法を参考に
趣旨・目的	本研究は、障害当事者の社会参加という課題に対し、知的障害者とそれを取り巻く家族、支援職、地域住民等が協働して行う音楽活動の実践および研究を通して、多様な人々が共に生きるコミュニティ形成に音楽が寄与する方法論の一端を明らかにすることを目的とする。参加者自身が研究に参加するアクションリサーチの手法を参考に、言語的・非言語的な様々な方法を試行し、研究活動への参加を模索する。
公表方法	研究論文
掲載誌	国立音楽大学『研究紀要』第59集
出版日	2025年3月（予定）
備考	音楽スペースおとむすび5周年記念「おとむすび音楽祭」にて、参加者によるパフォーマンス発表を行う予定である。（2024年4月7日）

瀧川 淳 TAKIKAWA Jun 准教授

研究課題	中学校音楽科で活用されるデジタル音楽教材の教育的効果に関する比較研究
趣旨・目的	現在、学校では児童生徒に1人1台端末の配布が実現し、それに合わせて音楽教育関係の企業等においては、様々なデジタル音楽教材を開発発表している。その内容は、以前からあった鑑賞系に加え、創作系、技能獲得系が加わり、様々な学びがデジタル音楽教材を通して実現できるようになっている。本研究ではこの内、創作系に焦点を当てて、現在発売されているデジタル音楽教材の教育的な効果を比較検討することを目的としている。
公表方法	研究論文
掲載誌	国立音楽大学『研究紀要』第59集
出版日	2025年3月（予定）

八 幡 眞 由 美 YAHATA Mayumi 准教授

研究課題 趣旨・目的	地域における子どもの本の環境の実態調査 子どもや保護者にとって身近な施設である図書館における子どもの本環境及び図書館での取り組みの実際について、インタビュー調査を実施し、地域における子どもの本の環境が子どもの育ちや子育て支援に与える影響に関して検証することを目的とする。また、図書館における多文化共生についての取り組みについて明らかにすることも目的とする。
公表方法 掲載誌 出版日	研究論文 国立音楽大学『研究紀要』第59集 2025年3月（予定）

中 西 千 春 NAKANISHI Chiharu 教授

共同研究者	トゥクラル リリィ THUKRAL Lily 非常勤講師
研究課題 趣旨・目的	大学生の批判的思考を育む英語教師へのエンパワーメント ーディスカッション・ガイドブックによるアプローチ 本研究の目的は、ディスカッションに不慣れな学生の批判的思考を促進するため、英語教師をエンパワーし、自信を持ってディスカッション指導ができるようにすることである。まず Community of Inquiry（以下 CoI）（Garrison 他, 2001, 2009）を使った英語教育における先行研究レビューをした。次に、CoIを基にした授業実践を行い、その成果を Arbaugh 他の質問紙調査（2008）で測定した。さらに、このフレームワークを活用してディスカッション・ガイドブックを考案した。
論文	Lily THUKRAL & Chiharu NAKANISHI (2024) Enhancing Language Learning through the Community of Inquiry (CoI) Framework: A Systematic Literature Review, 国立音楽大学『研究紀要』, 第58集, pp. 171-180 中西 千春 & Lily THUKRAL (2024). 「ブレンデッド・ラーニングと CoI フレームワークを組み合わせた英語教育の効果：音楽大学における事例研究」中西 千春編著『音大生の国際的な視野を広げるー国際性向上ワークショップの効果ー』, pp. 72-90

末松 淑美 SUEMATSU Yoshimi 教授

研究課題	話法助動詞の対照言語学的研究——ドイツ語・オランダ語におけるダイクシスの比較
趣旨・目的	ダイクシスとは、話者の「認知的視点の位置」を表現するものである。これまで、ドイツ語とオランダ語の同語源の話法助動詞（sollen と zullen、müssen と moeten など）の用法を意味論の立場から比較分析してきた。その結果、特に人の意志が関連するときに用法の違いが見られるという認識を得ている。ダイクシスという概念を用いて、用法の違いや変化の生じた背景の説明を試みる。
公表方法	研究論文
掲載誌	国立音楽大学『研究紀要』第59集
出版日	2025年3月（予定）

大和久 吏恵 OWAKU Rie 准教授

共同研究者	篠原 結城 SHINOHARA Yuki 非常勤講師
研究課題	対面授業の回帰に伴う振り返り活動の再開—国立音楽大学での試み—
趣旨・目的	本研究の目的は、成績以外の要素で単位を落とす学生数を減らすことである。筆者らは、学生が大学へ通う習慣を取り戻すこと、出席や課題提出に関する自律心を養うこと、英語授業に関心を持つことが必要と考え、かつて行われていた「振り返り活動（Self-reflection File Activity）」を再開した。2023年度前後期に「振り返り活動」を行い、前期と比較して後期に落単学生の人数を減らすことができた。本活動を継続することで一定の効果が期待できるという結果を得た。
公表方法	The 9th IAFOR International Conference on Education – Hawaii (2024年1月5日 口頭発表)、外国語教育メディア学会関東支部研究紀要 (LET Kanto Journal) 第9巻 (2024) : 投稿予定 (審査あり)
日程・会場	2024年1月5日 (金) Hawaii Convention Center (口頭発表)
出版日	2024年12月 (予定)